

「ネバーギブアップ」いばらきの酒蔵はあきらめません。

茨城地酒まつり in 浅草花やしき

あきらめない気持ちが実を結んで、念願の試飲イベント初開催



合言葉は「ネバーギブアップ！」- 3月11日の東日本大震災でいったんは中止が決定された「茨城地酒まつり」が、10月7日の夕べ、東京都台東区の「浅草花やしき」でめでたく開幕。およそ 650 名の日本酒ファンが、あふれる日本最古の遊園地を舞台に、茨城 31 蔵の日本酒に酔いしれました。



● 今夜の一杯を日本酒復活の一杯に

「茨城地酒まつり in 花やしき」は、茨城地酒の美味しさをもっと多くの人に知ってもらおうと、茨城県酒造組合（廣瀬淳一会長）が東京で始めて開催した大型試飲イベント。組合では、当初3月25日の開催予定で準備を進めていましたが、3.11大震災で県内の酒蔵にも大きな被害が発生したことから中止を決定。その後半年余りを経て、関係者の熱意により開催にこぎつけたもので、当夜、歓迎挨拶の中でその間の経緯を説明した廣瀬会長は「花やしきと浅草商店街の人々、そして日本酒ファンの力に支えられてやっとこの会を開催できた。今夜の一杯が日本酒復活の一杯になることを切に祈る」と感慨もひとしおの様子でした。



廣瀬会長

●● 楽しさ一杯、日本酒のアミューズメント・パーク

会場には、広々としたスペースを目一杯に利用して、各蔵のブースとあんこうのどぶ汁、常陸秋そばといった地元名物料理の屋台店などがズラリと軒を並べ、まるで日本酒のアミューズメント・パークのような楽しさいっぱいの雰囲気。



関係者そろって鏡開き(左から2人目は地元選出の藤田財務副大臣)

紆余曲折の末の開催とあって、参加者のテンションも高く、鏡開きと乾杯で開幕を祝った後は、笠間焼のぐいのみを手に31蔵の日本酒を次々に試飲したり、あんこうの吊るし切りの実演や料理を楽しんだり。また樽酒のサービスコーナーには義援金の募金箱も置かれ、呼びかけに応じて募金する人の姿がおおぜい見られました。

